

その他

オーストラリア、ニューカッスル大学との研究・教育に関する  
 連携協定締結：協定締結への経緯およびニューカッスル大学の現状に関する報告  
 Conclusion of the Research and Educational Agreement with  
 the University of Newcastle in Australia: A Report on the Agreement Signing  
 and the University Environment

高橋 和子<sup>1)</sup>, 村上 明美<sup>2)</sup>, 中村 丁次<sup>3)</sup>

1) 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部人間総合科

2) 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部学部長

3) 神奈川県立保健福祉大学学長

Kazuko Takahashi<sup>1)</sup>, Akemi Murakami<sup>2)</sup>, Teiji Nakamura<sup>3)</sup>

1) Liberal Arts and Sciences, Faculty of Health and Social Work,  
 Kanagawa University of Human Services

2) Dean, Faculty of Health and Social Work, Kanagawa University of Human Services

3) President, Kanagawa University of Human Services

抄 録

2018年2月1日オーストラリア、ニューカッスル大学 (The university of Newcastle) と神奈川県立保健福祉大学の間で、研究・教育に関する連携協定が締結された。協定調印のために、中村丁次学長、村上明美学部長、高橋和子講師がニューカッスル大学を訪問した。協定調印後、今後の共同研究・教育について話し合いが行なわれ、大学施設を見学した。本報告の目的は、この協定に関する概要、およびニューカッスル大学についての具体的で有用な情報を、これから共同研究・教育を始めようとする人々に伝えることである。協定の目的は、双方の教職員および学生の共同研究・教育を促進することである。ニューカッスルは、シドニーから電車で約3時間北上した所にある港湾都市である。ニューカッスル大学は、優れた研究者と最新の施設を有しており、共同研究を進めるに適した大学である。本大学の学生、大学院生にとっても望ましい海外留学先の1つであると考えられる。まずは看護学科教員が共同研究を開始する予定であり、他の学科においても共同研究・教育が進むことが期待される。

キーワード：オーストラリア、ニューカッスル大学、協定、締結

Key words : Australia, The University of Newcastle, Agreement, Conclusion

はじめに

2018年2月1日オーストラリア ニューカッスル大学 (The university of Newcastle) キャラハンメインキャンパス (Callaghan Main Campus) におい

て、ニューカッスル大学と神奈川県立保健福祉大学 (本大学) の間で、研究・教育に関する連携協定が締結された。協定調印のために、中村丁次学長、村上明美学部長、高橋和子講師がニューカッスル大学を訪問した。

本報告の目的は、今回の協定締結に関する経緯、協定の要点、ニューカッスルおよびニューカッスル大学の現状を記録し伝えることにある。今後、今回

著者連絡先：神奈川県立保健福祉大学人間総合科  
 〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町1-10-1  
 (受付 2018.9.19 / 受理 2018.12.27)

締結された協定に基づいて、本大学の様々な教職員がニューカッスル大学の教職員と協力して研究・教育活動を進めていくであろう。そのような活動を始める人々にとって、本報告が、必要かつ有用な基本的情報を得られるものとして機能することを願っている。

## 報告

### 1. 研究・教育に関する連携協定概要

#### (1) 協定締結への経緯

ニューカッスル大学と本大学との結びつきは、ニューカッスル大学のサラ・ジョン看護・助産学科准教授 (Dr. Sarah Jeong, Associate Professor, School of Nursing and Midwifery) と、当時本大学保健福祉学部看護学科に在職した織井優貴子教授 (現在は首都大学東京 大学院人間健康科学研究科教授) との10年来の親交に始まる。織井元教授は、平和中島財団より2016年度外国人研究者等招致助成を受け、研究課題「高齢者のエンドオブライフケア (終末期ケア) におけるシミュレーション教育の有用性国際比較」においてサラ准教授を2017年に日本に招聘した<sup>1)</sup>。その際、国際交流の一環としてニューカッスル大学紹介が本大学で実施された。

それを機に本大学の村上明美学部長とニューカッスル大学のサリー・チャン看護・助産学科長 (Dr. Sally Chan, Professor and Dean of School of Nursing and Midwifery) が、数ヶ月を掛けメールで意見交換し信頼関係を築き、研究・教育に関する連携協定締結へと発展させた。当初は、本大学看護学科とニューカッスル大学看護・助産学科との協定案から始まったが、今後の研究・教育の発展を鑑み学部間協定の方が望ましいと考えた。さらに中村丁次学長の勧めにより、より広い大学間協定を締結する運びとなった。

#### (2) 連携協定の要点

今回の協定に関して今後、教職員が共同研究・教育を始める際に確認しておくべき重要な点を記した。

- [1] 協定書<sup>2)</sup>の正式名称：“Memorandum of Understanding The University of Newcastle and Kanagawa University of Human Services” 「ニューカッスル大学と神奈川県立保健福祉大学間の覚書」
- [2] 協定の目的：ニューカッスル大学と神奈川県立保健福祉大学が以下の機会を作るように努め、協力を促進することが目的である。
  - i. 両大学の教員および学生が、双方の研究、研修に参加できる機会
  - ii. 共同の研究・教育に関する企画を立ち上げる機会
  - iii. 共同の会議、セミナー、ワークショップを催す機会
  - iv. 双方の教職員、学生の交流、海外留学を促進する機会
  - v. 教職員の能力強化において協力する機会
- [3] 協定調印者：本学は中村丁次学長、ニューカッスル大学側はワイニー・エリー大学副総長代理、国際および促進関係担当 (Mrs. Winnie Eley, Deputy Vice Chancellor, International and Advancement) が責任者として調印した。また立会人として、本大学の村上明美学部長、ニューカッスル大学のサリー・チャン看護・助産学科長が続いて署名した。
- [4] 有効期限：2018年2月1日から2022年12月31日。この期間を過ぎてなお協力関係を維持したい場合は協定の延長が必要となる。
- [5] 今後の担当者：本大学側に窓口となる担当者を1名置くことが義務付けられており、岩崎昭司企画課課長 (現、企画・地域貢献部部長) がこれに就任した。

### 2. ニューキャッスル大学訪問概要

ニューカッスル大学と神奈川県立保健福祉大学との大学間協定の覚書に調印する目的で、中村丁次学長、村上明美学部長、高橋和子講師 (国際協働専門部会) が、2018年1月30日(火)から2月2日(金)までの4日間の日程 (ニューカッスル1泊、シドニー1泊、計4日間) で、ニューカッスル大学を訪問した。覚

表1 ニューカッスル大学訪問のスケジュール

<b>1日目</b>	1/30 (火)	18:55 成田空港発	[機内泊]
<b>2日目</b>	1/31 (水)	06:40 シドニー空港着 09:30 車で移動。シドニー市内、シドニー大学を見学。昼食 13:00 車でニューカッスルへ移動開始 15:30 ニューカッスル着 16:00 チャン看護・助産学科長がホテルまで出迎えに来てくださり、ニューカッスル市内を案内していただく 18:00 チャン先生主催による夕食会 (5名)。翌日の調印式の実施要領について確認。意見交換	[ホテルイビスニューカッスル泊]
<b>3日目</b>	2/1 (木)	09:00 車でホテルから大学へ向かう (写真1) 09:15 大学内 <b>Industry Development Centre Atrium</b> (吹抜けタイプのホール) 着 09:30 モーニングティー。調印式参加者、見学者と会談 10:00 ホールにて、覚書調印式、記念品交換、記念写真撮影 (写真2)。エリー大学副総長代理と中村学長が代表者として署名。それに続き、チャン学部長と村上学部長が立会人として署名 10:30 栄養学のマノハー・ガーク栄養補助食品研究センター長の招待を受け、研究室訪問 11:00 ジョン・エイトキンプロ大学副総長および看護・助産学科の教員との会談。双方の大学紹介、意見交換 12:00 ランチョンミーティング (写真3)。チャン先生より看護・助産学科紹介。今後の研究、教育の協力についての話し合い。IT イノベーションチームのオフィス (写真4) でドノバン・ジョンズ チームリーダーより説明を受ける。その他の大学施設見学 14:30 <b>New Space Campus</b> と呼ばれる、海岸近くの新キャンパスへ移動。メインキャンパスから車で10分ほどの距離。新校舎見学後、ホテルに送迎いただく 17:00 大学近くのホテル <b>ジェズモンド・エグゼクティブ・ヴィラ</b> (写真5) を見学。その後車でシドニーへ移動開始 20:00 シドニー着。夕食	[リッジズシドニーエアポートホテル泊]
<b>4日目</b>	2/2 (金)	07:00 ホテル発、徒歩にてシドニー空港へ 09:15 シドニー空港発 17:00 成田空港着	



写真1 ニューカッスル大学キャンパス：広くて森のようなキャンパスにいくつものビルが点在する。建物の壁面に大学のシンボルであるタツノオトシゴのマークが見える。



写真2 調印後の記念写真撮影



写真3 看護・助産学科の先生方との会議

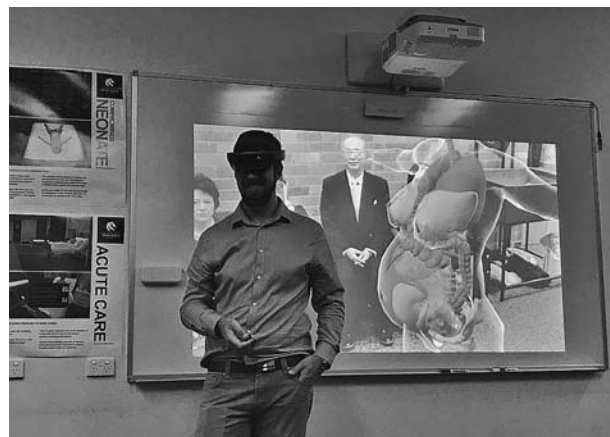


写真4 図書館棟内のITイノベーションチームのオフィスを訪問：妊娠による内臓位置の変化に関する視覚的教材や新生児蘇生のバーチャルリアリティ学習を体験。



写真5 大学近くにある唯一のホテルであるジェズモンド・エグゼクティブ・ヴィラ：簡単な調理設備も備わっている。

書調印後、主に看護学部の教員と今後の研究、教育での協力について話し合い、大学施設や近くのホテルを見学した。訪問のスケジュールは表1の通りであり、具体的な時間の流れと写真を付けた。

### 3. オーストラリア、ニューカッスル、そしてニューカッスル大学について

今後ニューカッスル大学を訪問する教職員、学生が知っておくと良い基本的な情報および留意点を記した。

#### (1) オーストラリア

##### [1] 基本情報<sup>3), 4), 5)</sup>

オーストラリアの文化はイギリスのそれが基盤にある。全人口における移民の割合が多い。人高密度が低い地域があるため、地域医療、連携医療の体制

が整っている。平均寿命は世界4、5番目に長い。オーストラリアの就学年齢は、日本のそれとほぼ同じであるが、大学は基本的に3年間で卒業できる。優秀な学生は、許可を得てさらにもう1年大学にとどまり卒業研究をしてから卒業する。

#### (2) ニューカッスル

##### [1] 基本情報<sup>6)</sup>

ニューカッスルは、シドニーの北方160kmに位置する人口49万人の港湾都市である。シドニー空港から車で約2時間、電車で約3時間を要する。1942年には大日本帝国海軍の潜水艦攻撃による攻撃を受けており、その時に応戦した大砲が海岸の崖の上に保存されている。1989年にはオーストラリア史上最大の地震ニューカッスル地震に襲われた。

ニューカッスルは、小さな港町であり美しい海岸に恵まれ、大都市から離れており、のんびりした環境で治安も良い。古くからあるダウンタウンはこじんまりしており、その大通りは車で5分ほどで通過できる。ジョン・ハンター病院を含む2つの総合病院がある。

##### [2] 留意点

ニューカッスルは、シドニー空港からの移動時間は掛かるものの、後述の大学環境も含め総合的に判断すると、学生が短期留学に訪れるのには適した都

市であると考えられる。オーストラリアについて学ぶという点では、日本からの玄関口であるシドニー市内の見学を1日程度組み合わせると良いと考えられる。

学生や教職員がニューカッスルを訪れる場合は、シドニー空港から電車を利用するのが一般的であるが、電車は30分以上、場合によっては2時間ほど遅れることもある。シドニー空港から、シドニー市内まで電車が出て、そこから長距離電車に乗り換えてニューカッスルに向かう。現在、ブロードミードウ (Broadmeadow) という駅がニューカッスル大学最寄りの駅である。オパールカード (Opal Card) と呼ばれる日本のスイカカードと同様なカードを、シドニー空港で電車に乗る際に購入する必要がある。

ニューカッスル市内で、病院や海岸など大学以外の場所を見学する場合は、タクシーを使う必要がある。タクシーは事前にホテルなどで予約する必要がある。

ダウタウンにはホテルが数個あるが、ダウタウンと大学までは車で15分ほど離れているため、ニューカッスル大学訪問のためには、大学近くにある唯一のホテル ジェズモンド・エグゼクティブ・ヴィラ (Jesmond Executive Villa) (写真5) に宿泊するのが便利である。簡単な調理設備も各部屋にあり、大通りを挟んだ向かい側には、スーパーマーケット、薬局、レストランが数件あるため、短中期の滞在に適している。このホテルから大学へは徒歩15分、車だと5分掛かる。インターネットでの予約が可能である。

### (3) ニューカッスル大学

#### [1] 基本情報<sup>7), 8)</sup>

ニューカッスル大学は、1965年に設立された公立の大学である。学生数約37,000人(含留学生7,000人/115カ国)、教員数約5,000人。建築学、人文科学、生物工学、コンピューター科学、教育学、工学、環境科学、情報科学、法学、看護学、経営学、薬学、社会学、開発学など158種類の学部プログラム、101種類の大学院プログラムを提供し、高い研究能力を誇る。

郊外型の大学ではオーストラリア最大の規模を誇

り、キャラハンメインキャンパスに加え、オリンバ (Ourimbah)、ポートマッカーリー (Port Macquarie)、シドニーそしてシンガポールにキャンパスを持つ。新学期は2月、7月である。大学のモットーは、I look ahead、シンボルマークはタツノオトシゴをイメージしたデザインである。

キャラハンメインキャンパスは、ダウンタウンから車で15分の距離に位置する。広く森のようなキャンパスには、近代的な建物と先端技術を備えた施設を多く有する。学生寮は古くからの2階建てのもの、そして新しい7、8階建てのものがある。キャンパス内にはバーもある。

#### [2] 教育組織<sup>7)</sup>

表2に示した5学部から成る。なかでも保健・医療学部 (Faculty of Health) はオーストラリアで最も総合的であると言われている。本大学の相当学科も示したが、研究内容によって、複数の学科に相当する場合が考えられるので、個別の教員について確認が必要と思われる。

#### [3] 留意点

キャラハンメインキャンパスは広く、木が茂っているため見通しが良くなく、初めての者にとっては迷う可能性がある (写真1)。違う建物へ移動するためには、徒歩だと10分以上掛かる場合がある。また、学部学科によっては研究内容によって、別の建物、さらには別のキャンパスに散らばっていることがあるので、事前に目的地の詳しい場所を確認すべきである。

### 4. 看護・助産学科との共同研究・教育について

看護・助産学科の教員と今後の研究、教育の協力についての話し合いが行われた。

#### (1) 協力体制

話し合いに出席された教員は、サリー・チャン学科長、ケリー・インダー副学科長 (Dr. Kerry Inder, Deputy Head of School)、サラ・ジョン准教授、アマンダ・ウィルソン講師 (Dr. Amanda Wilson)、エイリーン・ダウズ助産大学院プログラム責任者 (Dr. Eileen Dowse, Program Convenor,

表2 ニューカッスル大学教育組織：保健・医療学部に関しては学科（School）も示した。

学部	日本語訳	本大学の相当学科
Faculty of Business and Law	商学・法学部	
Faculty of Education and Arts	教育・文芸学部	Social Work 研究ということで、本大学の社会福祉学科と相当
Faculty of Engineering and the Built Environment	工学・建築環境学部	
Faculty of Science	理学部	
Faculty of Health and Medicine	保健・医療学部	
School of Biomedical Sciences and Pharmacy	生物医学科・薬学科	研究内容より本大学の栄養学科と相当
School of Health Sciences	健康科学科	研究内容より本大学の栄養学科、リハビリテーション学科と相当
School of Medicine and Public Health	医学・公衆衛生学科	
School of Nursing and Midwifery	看護・助産学科	本大学の看護学科と相当

Master of Midwifery Studies)、シャリーン・ハンター講師 (Dr. Sharyn Hunter)、他である。出席できなかった教員も含め、ニューカッスル大学看護・助産学科としては、様々な研究、教育の協力に対して前向きな意向を示してくれた。

## (2) 共同研究テーマの検討

共同研究の可能性があるテーマとして次のものが挙げられた。小児の在宅看護、高齢者の介護や看護、周産期のメンタルヘルス、コミュニティーケア、糖尿病などの慢性疾患患者の食事や運動、スマートフォンアプリを用いた介護者・患者の支援（服薬時間の告知など）、スマートフォンアプリを用いた一般女性のための健康管理（月経周期に応じたケアなど）。さらにバーチャルリアリティ学習教材、タブレット教材、スマートフォンアプリを日本語に訳して日本で使用することも研究テーマとなりうる。

## (3) 今後の活動

本大学看護学科の教員が2019年度中にニューカッスル大学を訪問する予定である。事前に共同研究を開始しそれを促進させる、病院や大学の授業を見学

する、ことが目的である。

## 考察

今回の協定締結により、本大学の教員がニューカッスル大学の教員と積極的に交流し、共同研究が開始されることが期待される。

オーストラリアは移民が多い国であり、多人種に対する医療に関する知識がある<sup>5), 7)</sup>。また人口密度が低い地域があるため遠隔医療、地域医療、連携医療に関する知識が豊富である<sup>5), 7)</sup>。今後の共同研究によって、そのようなオーストラリアが持つ知識を得て、本大学における研究がより国際的、未来的になっていくと考えられる。それは、外国人労働者が増え、医師が不足している日本にとってますます有用な研究となるであろう。

ニューカッスル大学では、バーチャルリアリティを活用したシミュレーション教育を取り入れるなど、最新技術を教育に活かす試みが進んでいる。それらの教育資源を参考にできれば、本大学の教育がさらに進歩するものと考えられる。将来、学生、大学院生が交換留学をするプログラムができたなら

ば、国際教育、英語教育の点からも望ましい。

ニューカッスル大学にとっても、本大学からの協力は、彼らの教育研究活動をさらに国際的なものにするに役立つと考えられる。高齢化が進む我が国の医療状況は、オーストラリアの将来にとって有効な情報でもある。また、ニューカッスル大学の学生、大学院生が日本について学び、日本を訪れる機会を増やすことにつながるであろう。

## おわりに

ニューカッスル大学と本大学の間で、研究・教育に関する連携協定が締結された。ニューカッスル大学は大規模で、優れた研究者と最新の施設を有する大学であり、共同研究を行なえる機会を持つことは本大学にとっては望ましいことであると考えられる。また本大学の学生、大学院生の海外留学先の選択肢の1つとしても適当であろう。来年度、看護学科の教員が共同研究の目的でニューカッスル大学を訪ねる予定である。近い将来、種々の共同研究そして学生、大学院生の交換留学につながっていくように願っている。ニューカッスル大学との活動を目指す方々に、本報告が役に立つことを祈っている。

なお、今回の訪問に関しては2018年2月28日に本大学において開かれた「ニューカッスル大学訪問報告会」でも発表した。その時の報告会資料<sup>9)</sup>および本大学内のデータ資料にあてれば、さらなる写真等を見ることが可能である。

## 謝辞

ニューカッスル大学と本大学の結びつきを作っていただいたニューカッスル大学のサラ・ジョン先生と首都大学東京の織井優貴子先生、調印式および大学訪問を企画実施して下さったニューカッスル大学看護・助産学科長のサリー・チャン先生に深く感謝申し上げます。協定にご署名いただいたワイニー・エリー大学副総長代理、調印式および会議に参加して下さったジョン・エイトキン プロ大学副総長 (Dr. John Aitken, Pro Vice Chancellor)、看護・助産学科の教職員の皆様、マノハー・ガーグ栄養補助食品研究センター長 (Dr. Manohar Garg, Head of

Nutraceutical Research Centre)、シリーズ・カイルズ準教授 (Dr. Therese Kairuz) を始めとする薬学部の教職員の皆様に感謝申し上げます。大学施設の見学に際して、ドノバン・ジョンズ (Dr. Donovan Jones) ITイノベーションチームリーダーを始めとし多くの教職員の皆様にお世話になりました。協定作成、訪豪手続きにご尽力いただいた本大学 岩崎昭司企画・地域貢献部部長、田代直之氏、小澤孝弘氏を始めとする教職員の皆様に感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) Heiwa Nakajima Foundation. [2018.11.11] URL: <http://www.hnf.jp/josei/>
- 2) The University of Newcastle, Kanagawa University of Human Services. Memorandum of Understanding The University of Newcastle and Kanagawa University of Human Services. 2018.
- 3) Australian Government. australia.gov.au. [2018.9.3] URL: <https://www.australia.gov.au>
- 4) Australian Government Department of Foreign Affairs and Trade. Australia in Brief. [2018.9.3] URL: <https://dfat.gov.au/about-us/publications/Pages/australia-in-brief.aspx>
- 5) Australian Bureau of Statistics. 2018. [2018.11.11] URL: <http://www.abs.gov.au/ausstats>
- 6) City of Newcastle. The City of Newcastle. 2018. [2018.9.3] URL: <http://www.newcastle.nsw.gov.au/Home>
- 7) The University of Newcastle. Study at UON. [2018.9.3] URL: <https://www.newcastle.edu.au/study>
- 8) The University of Newcastle. 2017 Annual Report. [2018.11.11] URL: <https://www.newcastle.edu.au/about-uon/our-university/annual-r>
- 9) 中村丁次, 村上明美, 高橋和子. ニューカッスル大学訪問報告会資料. 神奈川県立保健福祉大学. 2018.

